

○「ユース政策モニター」を活用した子供・若者社会参画推進事業（内閣府）

- ・ こども・若者に関する施策をより充実させるとともに、こども・若者の社会参加意識を高めるため、「ユース政策モニター」（現対象：小学5年生から20代）を公募し、社会の様々な課題に対する意見を募集する「子供・若者社会参画推進事業」を、内閣府において平成21年度から実施。他省庁から広くテーマを募集し、対面又はWebアンケートにて、こども・若者からの意見を聴取。
- ・ 「子供・若者育成支援推進大綱」の見直し等の参考とした。（別紙1）

◆意見募集事業（Webアンケート）-過去3年の例-

区分	テーマ	提案省庁
令和3年度		
第1回	食品ロスの削減を進めるための情報発信について	消費者庁
第2回	若い世代に法教育を広めるための取組について	法務省
第3回	若年層の性暴力被害の対策について	内閣府男女共同参画局
第4回	孤独・孤立対策を考える～声をあげよう、声をかけよう～	内閣官房孤独・孤立対策室
令和2年度		
第1回	犯罪や非行の防止と立ち直り支援について	法務省
第2回	次代を担う若者に聞く第5次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方（素案）について	内閣府男女共同参画局
第3回	「子供・若者育成支援推進大綱」の見直しについて	内閣府政策統括官（政策調整担当）
第4回	消費者教育を始めとする若い世代の消費者の被害防止に向けた取組について	消費者庁
令和元年度		
第1回	若い世代に対する献血推進活動について	厚生労働省
第2回	次代を担う女性の科学技術人材育成について	内閣府男女共同参画局
第3回	成年年齢引下げに対する意識等について	法務省

◆ユース・ラウンド・テーブル（対面）-過去3年の例-

区分	テーマ	提案省庁
令和3年度（オンライン開催）		
第1回	若い世代に法教育を広めるための取組について	法務省
第2回	若年層の性暴力被害対策について	内閣府男女共同参画局
第3回	孤独・孤立対策を考える～声をあげよう、声をかけよう～	内閣官房孤独・孤立対策担当室
令和2年度		
第1回	次代を担う若者に聞く第5次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方（素案）について	内閣府男女共同参画局
第2回	犯罪や非行の防止と立ち直り支援について	法務省
令和元年度		
第1回	成年年齢引下げの意義について	法務省
第2回	理工系分野に進む女子生徒はなぜ少ないのか	内閣府男女共同参画局

1

こどもの意見反映に関する最近の国の取組例について

○「こども政策の新たな推進体制に関する基本方針」の検討過程における、

こども・若者からのヒアリング（内閣官房こども政策推進体制検討チーム）

- ・ 「こども政策の推進に係る有識者会議報告書」（令和3年11月29日）の取りまとめにあたり、事務局において、こども・若者からのヒアリングを実施。いただいた意見も参考に報告書を取りまとめ。（別紙2-1）

No.	ヒアリング対象者	実施日
①	フリースクールやプレイパークに通っている小学生・中学生19名	2021年10月29日
②	社会課題に取り組んでいる高校生・大学生10名	2021年10月27日
③	児童の権利条約の普及に取り組んでいる小学生・中学生・高校生16名	2021年11月2日
④	児童相談所一時保護所の小学生・中学生6名、 児童養護施設の中学生・高校生3名	2021年11月6日、7日
⑤	社会的養護の経験がある大学生3名	2021年10月13日、20日

- ・ こどもの視点に立ったこども政策の推進に向けて、こども・若者（小学校4年生～大学3年生の23名）と野田大臣との意見交換を実施。いただいた意見はHPで公表。（別紙2-2）

○子どもの権利擁護に関するワーキングチームの取りまとめにあたってのヒアリング

（厚生労働省）

- ・ 「児童虐待防止対策の強化を図るための児童福祉法等の一部を改正する法律」附則において検討事項とされた、こどもの意見を聴く機会の確保、意見表明支援の仕組みの構築、権利擁護の仕組み等の検討にあたり、児童養護施設、児童自立支援施設、一時保護所や里親のもとで生活しているこどもからも直接意見を聴き、目指すべき方向性について整理。（別紙3）

2

こども・若者から寄せられた意見

別紙 1

(子供・若者育成支援推進大綱の策定に関して内閣府に寄せられた意見)

意見受付期間：令和2年11月2日(月)～11月23日(月)

回答者：内閣府令和2年度ユース特命報告員384名のうち170名が回答

調査時点で12歳から30歳のこども・若者(男性：54名 女性：116名)

あなた自身も含め、子供・若者は、今どんなことで悩んだり、困ったりしていると思いますか。詳しく教えてください。

- ・コロナ禍による人間関係の希薄化、親や友人とのコミュニケーション不足、孤独感。
- ・コロナ禍の影響で親と接する時間が増え、ストレスが生じている。
- ・学校やSNSなどのネット空間でのいじめ。スクールカウンセラーは予約を取るのが困難。
- ・将来に対する漠然とした不安(進路やキャリア選択、コロナ収束後の生活、結婚・子育てなど)。
- ・教育費や生活費など経済的な不安。不安定雇用や低賃金から結婚や子育てに前向きになれない。
- ・安心して相談できる人・場所が地域に少ない。SNSなど気軽に相談できるツールが少ない。

子供・若者が今悩んだり、困ったりしていることに対し、あなた自身やまわりの人たちが取り組めることは何か、詳しく教えてください。

- ・悩みを相談しやすい場所づくり。また、悩みを相談できる場所があるという情報を共有・提供すること。
- ・オンライン上などでコミュニケーションや交流を促進する環境づくり。
- ・友人など周囲の人への寄り添いや共感。
- ・地域コミュニティでのこども・若者への声かけや見守り。
- ・進学や就職に関する情報を提供すること。
- ・SNSやインターネットの正しい使い方、情報の取捨選択の仕方を学習・共有すること。
- ・勉強、資格取得、運動などを通じて、自己肯定感を高めたり、視野を広げたりすること。
- ・セクシャルマイノリティや障害者など多様性への理解を深めること。

子供・若者が今悩んだり、困ったりしていることに対し、政府や自治体、民間団体に取り組んでほしいことは何か、詳しく教えてください。

【こども・若者の声の政策への反映】

- ・こども・若者とその家族に対して、学校や家庭で抱えている悩みを調査・ヒアリングし、状況を把握した上で支援を行ってほしい。
- ・こども・若者の声をきちんと拾って政策に取り入れるべき。
- ・こども・若者議会や地方公共団体レベルでこども・若者の意見交換ができる場の整備。

【居場所づくり・相談体制の整備】

- ・学校・家庭以外で逃げ場となる居場所づくり。
- ・地域社会との繋がりを深めることができる環境づくりへの支援。
- ・カウンセラー、医師や弁護士などの専門家に気軽に相談できる体制づくり。
- また、そういった支援や制度の存在をSNSなどを通じて積極的に広報・周知すること。

【困難を抱えるこども・若者への支援】

- ・貧困、虐待、いじめ、ひきこもりなど、困難な状況にあるこども・若者とその家族への支援の充実。
- ・障害を持つこども・若者への重点的な支援。
- ・コロナ禍で課題が健在化しにくくなっている中、家庭が孤立しないつながりづくり。
- ・こども食堂や学習支援などを運営しているNPOへの支援の拡充。

【教育・雇用】

- ・教育の改善・充実(性や命の大切さ、メディアリテラシー教育、お金の教育、グローバル教育など)。
- ・教育への投資の拡充(奨学金、先端技術や独創性のある研究への研究費支援、留学支援など)。
- ・教育格差を是正し、誰にでもチャンスが巡ってくる社会、失敗しても再チャレンジできる社会の実現。
- ・労働環境の改善、働き方改革、子育てしやすい環境の整備。
- ・若者の就労・雇用支援、非正規雇用の是正。ライフプランを相談できるような就労支援。
- ・情報通信環境の整備。

※設問は調査時のものを掲載。

内閣府令和2年度ユース特命報告員より寄せられた意見を基に内閣官房作成。

令和2年度第3回青少年意見募集事業結果: <https://www8.cao.go.jp/youth/youth-opinion/report/pdf/r02/3rd.pdf>

事務局によるこども・若者からのヒアリング概要

No.	ヒアリング対象者	実施日	ページ
①	フリースクールやプレイパークに通っている小学生・中学生19名	2021年10月29日	P2
②	社会課題に取り組んでいる高校生・大学生10名	2021年10月27日	P4
③	児童の権利条約の普及に取り組んでいる小学生・中学生・高校生16名	2021年11月2日	P7
④	児童相談所一時保護所の小学生・中学生6名、児童養護施設の中学生・高校生3名	2021年11月6日、7日	P9
⑤	社会的養護の経験がある大学生3名	2021年10月13日、20日	P13

1

こども・若者からのヒアリング ①

ヒアリング対象者：フリースクールやプレイパークに通っている小学生・中学生19名
ヒアリング実施日：2021年10月29日

Q1. 困っていること、悩んでいることはありますか？

【学校における悩み】

- ・仲の良い友達ができない。友達が自分の悪口を言っているように感じる。
- ・学校が楽しいと思えない。学校に行けていない。
- ・苦手な教科がある。授業が分かりづらい。勉強についていけない。
- ・制服や髪型の指定などの学校のルールが多く、厳しい。
- ・合唱コンクールや体育祭など学校行事に強制的に参加させられるのが嫌だ。
- ・学校の中で学年間の上下関係があり、嫌だ。
- ・給食がおいしくない。給食を選択できない。
- ・クラスの人数が少ない。
- ・クラスの人数が多い。席を自由に選べない、席替えが面倒。
- ・クラスで問題が起きると連帯責任にされる。

【コロナによる悩み】

- ・楽しみにしていた地域のイベントなどが減り残念。
- ・公共の場でマスクをしている人が減ってきていることが不安。
- ・ワクチンを打っていない人に対する差別がある。

【こどもへの情報不足】

- ・大人には伝わっている情報が、こどもには伝わっていないことが多い。
- ・選挙についてこどもに何も情報が伝わっていない中、選挙カーがうるさいと感じる。

【こどもの意見を聞いてくれない】

- ・宿題をやらなかったときに、できなかった理由聞いてくれなかった。
- ・勉強をきちんとやっているのに、やっていないと言われるのが嫌だ。

【金銭的な心配】

- ・学校以外で学びたいと思うとお金がかかる。教育にかかるお金が心配。

2

Q2.困っていること、悩んでいることに対し、政府や自治体によってほしいことはありますか？

【教育環境の改善など】

- ・自分の学区以外の学校に行けるようにしてほしい。
- ・先生を選べるようにしてほしい。
- ・学校のルールを少なくしてほしい。また、ルールを子ども自身で考えて決められるようにしてほしい。
- ・勉強が分からない子もいる。数学の教員補助員のような先生を他の教科でも取り入れて、先生の数を増やしてほしい。
- ・勉強の遅れを感じない学校にしてほしい。
- ・希望する授業を選択できるようにしてほしい。
- ・楽しいと思える学校にほしい。
- ・授業の中で子どもがやりたいことを取り入れてほしい。
- ・将来の夢に繋がる勉強を学校でできるようにしてほしい。
- ・いろんな年齢の人と勉強できる学校にほしい。

【コロナ対策など】

- ・政府の実施している感染症対策など子どもに情報がきちんと伝えられていない。子どもにも情報が分かりやすく伝わるようにしてほしい。
- ・コロナの感染症対策をもっとしっかりしてほしい。

【選挙について】

- ・早く選挙に参加できるようにしてほしい。

Q3.どういった仕組みがあったら政府や自治体に意見を言いやすいと思いますか？

【行政をより身近な存在に】

- ・行政の担当者の顔が見えるようにしてほしい。
- ・行政の担当者が学校を訪問して子どもの意見を聞いてほしい。
- ・SNSで動画を配信するなどして、行政を身近に感じられるようにすれば、意見を言いやすいのではないか。

【意見を聴く仕組みなど】

- ・リモートなどで政治家と話ができる機会があったらうれしい。
- ・子どもが気軽に意見を提出できる意見箱を設置してほしい。
- ・子どもの中で選挙をして意見を言う代表を決めたら良いのでは。
- ・地域のイベントなどで意見を言える機会を増やしてほしい。
- ・学校でアンケートをとって、子どもの意見を集約してほしい。
- ・自分が言った意見が実際に実現されるのを見たい。

3

子ども・若者からのヒアリング ②

ヒアリング対象者：社会課題に取り組んでいる高校生・大学生10名
ヒアリング実施日：2021年10月27日

Q1.困っていること、悩んでいることはありますか？

【性やジェンダーに関すること】

- ・性的指向や性自認等に関して周りの理解を得るのが難しかったり、自分の意志に反した形で暴露されてしまうことがある。
- ・妊娠した子が学び続けることができる環境がなく、選択を迫られることが多い。
- ・美容広告など女性の容姿に関する広告を見るとプレッシャーを感じる。

【インターネット上の情報等に関すること】

- ・インターネット上の誤った情報を鵜呑みにして行動してしまったことがある。
- ・インターネットには多くの情報であふれかえっており、信頼できる正しい情報を見つけ出すことが難しい。

【コロナ禍での悩み】

- ・コロナ禍で活動を行ったり、直接人と話したり、相談する機会が失われている。
- ・コロナ禍で塾が閉鎖されたり、模試が受けられなかったり、思うように勉強ができない。
- ・コロナの影響でオープンキャンパスに行けず、進路を選択することが難しい。
- ・オンライン授業の増加や外出の自粛などによる体力不足。
- ・妊娠・出産などライフプランの変更を迫られた。

【経済的な悩み】

- ・家庭の経済状況により進学先の選択肢が狭まってしまった。
- ・経済的な理由から、留学ができなかった。やりたいことを諦めた。

【相談する人や場所に関すること】

- ・災害により、ライフステージが大きく変わってしまった。同じ経験をした先輩が周りにおらず、将来像を描くことが困難。また、カウンセリングが行き届いておらず、気軽に相談できる場所がなかった。
- ・性に関して話すことは恥ずかしいと感じる。相談に行くのも勇気が必要で、気軽に行けない。

4

Q2.困っていること、悩んでいることに対し、政府や自治体にやってほしいことはありますか？

【教育環境の改善など】

- ・教育（ジェンダー教育、性教育、メディアリテラシー教育、キャリア教育、シティズンシップ教育など）の充実。
- ・妊娠しても学び続けられる環境を整備してほしい。
- ・いじめや不登校への対応（いじめた側への対応、不登校の子だけが通える学校の整備など）。
- ・家庭の経済状況によって進学や留学など将来の選択肢が狭まらないようにしてほしい。

【相談できる環境づくりや情報へのアクセスなど】

- ・親や学校以外の第3者や行政に気軽に相談できる仕組み・環境をつくってほしい。
- ・相談できる場所や制度などをこども・若者にきちんと周知してほしい。
- ・必要なときに必要な情報、正しい情報にアクセスできるようにしてほしい。
- ・ネット上の性や女性の容姿に関する広告・情報について規制をするなど、より快適なネット環境をつくってほしい。

Q3.どういった仕組みがあったら政府や自治体に意見を言いやすいと思いますか？

【幅広い層からの意見聴取】

- ・年齢や住んでいる地域が異なるこども・若者、様々な経験の当事者など幅広いこども・若者から意見を聞いてほしい。
- ・色んな考えが必要だと思うので、意見を聞く代表者は無作為で選ぶ。

【SNSや学校などを通じた意見聴取】

- ・待っているだけでなく、政府の方から意見を取りに来てほしい（学校訪問、SNSなどを通して）。
- ・大学などの機関を通して学生の声を聴取・集約してはどうか。
- ・全国にこども・若者会議を置き、市民社会やこども・若者の代表（個人・団体）が意見の取りまとめをしてはどうか。
- ・SNSは多くの高校生・大学生にとって身近なもの。公式LINEを活用した意見募集やネット投票など、SNSを利用して意見を言える場があれば、より気軽に行政に意見を言えるようになるのではないか。
- ・こども・若者の中にはトラウマを抱えている子もいる。安心できる人や環境で時間をかけて丁寧に意見を聴取していくことが大切ではないか。

【行政へのアクセスのハードルを下げる】

- ・身近な行政というと地方自治体。まずは地方自治体で中高生が興味を持てるようなセミナーや講座を行い、地方自治体レベルの行政を身近に感じることができれば、国レベルの行政も身近に感じられるようになり、意見を言いやすくなるのではないか。
- ・こども・若者の意見が実際に反映された事例や反映される過程を「見える化」してほしい。
- ・こども・若者の価値観や考え方が多様化している中、行政にもより柔軟な考えを持ってほしい。
- ・行政は固いというイメージがある。行政が何をやっているのかYoutubeなどを通して身近に感じられるようにしてほしい。

参加者からの感想

- ・今まで遠くに感じていた、国の行政に関わる方々とお話できたことで、行政を身近に感じることができるようになりました。また、こども政策推進体制検討チームの皆さんが聞きながら話を聞いてくださったので、話すことの意味を感じられましたし、同世代の方が様々な活動をしていることを知ることが出来、私にとっても学びとなりました。行政に関わる方々が、私たちの世代からの意見を集めて形にすることが大事であると考えていらっしやることが大変伝わり、とても嬉しかったです。
- ・行政と聞くと自分からは遠い存在であると感じていました。しかし、私たちの活動や意見に対しても暖かい雰囲気でも聞いてくださりとても嬉しかったです。そしてこのようにお話をさせていただく機会があり、私たちの意見が届くのだと今までよりも少し近い存在になりました。
- ・（意見が）ジェンダーや性に偏っていたかもしれませんが、その偏りこそが「意識高い系」の関心だということで伝えられてとてもよかったと思います。
- ・活動を通して見えた課題を政策を考える方に直接伝えることができ、自分たちの声を届けることが出来たと実感することができました。私は今回の交流で行政を身近に感じる事ができました。なので、高校生年代に行政に関して関心を持ってもらうためにこのような交流をしてくださったら嬉しいなと思います。
- ・行政と聞くと自分からは遠い存在であると感じていました。しかし、私たちの活動や意見に対しても暖かい雰囲気でも聞いてくださりとても嬉しかったです。そしてこのようにお話をさせていただく機会があり、私たちの意見が届くのだと今までよりも少し近い存在になりました。
- ・少しでも、こども政策推進体制検討チームの方々、女子大学生年代が感じるジェンダー問題について知っていただき、なんらかの形で私の意見が反映されたら幸いです。政府の方の話し方とか服装がスーツで固かったかなと思ったので、オフィスカジュアルくらいでも良かったのではないかなと思いました。
- ・中央の人がこども・若者の声を聞いて政策をつくらうとしていることが知れてよかったです。こども庁は既に困難な状況にあるこどものために何かすると思っていましたが、私たちも少しは対象になったらいいなと思いました。またこのような機会があると嬉しいです。官僚の方の表情がかたくて少し怖かったです。私たちと官僚との距離感を改めて感じました。もっと意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛けた方がいいと思います。

こども・若者からのヒアリング ③

ヒアリング対象者：児童の権利条約の普及に取り組んでいる小学生・中学生・高校生16名
ヒアリング実施日：2021年11月2日

Q1. 困っていること、悩んでいることはありますか？

【多様性への理解不足】

- ・外国にルーツを持つ友達が変わったあだ名で呼ばれてしまっている。
- ・勉強や友達との関わりが難しくなり、特別支援学級に通っているが、本当はクラスみんなに自分ことを理解してもらい、普通学級の人々と一緒に勉強をしたり遊んだりしたい。
- ・フリースクールに通っているが、周りからそんなところに通っているのと言われた。

【経済的な悩み】

- ・家庭の経済状況により塾やフリースクールに行きたいのに行けない。
- ・フリースクールは学費を払う必要があり、家の経済状況が心配。将来も不安。
- ・友人が高校に通うためにバイトをしており、十分に勉強ができない状況にある。

【居場所や相談できる環境の不足】

- ・こどもが遊べる公園の数が減っており、ボール遊びや走ったりできない公園がある。
- ・公園は小さい子ばかりで遊びにくい。
- ・学校にスクールカウンセラーがいなかったり、1週間のうち数時間しかいなかったりする。
- ・スクールカウンセラーに助けを求めたいと思っても、どういった流れで相談できるのか分からない。
- ・カウンセラーや先生に相談した内容を、自分の意志に反して親や担任の先生など第3者に漏らされてしまった。

【こども・若者の意見を聞いてくれない】

- ・先生の態度が男の子と女の子で違う。また、良くない言葉遣いをすることがある。先生にやめてほしいと言ってもこどもだからという理由でこどもの意見を聞いてくれない。
- ・こどものことを大人が決めてしまっている。例えば、オルタナティブスクールに通う選択肢があるのに、こどもには選択肢があることを知らされていない。
- ・児童の権利条約について、学校では教えてくれず、知らない子が多い。
- ・こどもの意見を聞いてくれる仕組みがあっても、多くの子はそのことを知らされていない。

7

Q2. 困っていること、悩んでいることに対し、政府や自治体にやってほしいことはありますか？

【教育環境の改善など】

- ・教育（障害・性別・発達障害等の多様性、児童の権利条約など）の充実。
- ・何がいじめ・虐待にあたり、誰に助けを求めたら良いのか学校教育の中で教えてほしい。
- ・オルタナティブスクールを学校として認めてほしい。
- ・学校以外の場所でこどもの権利について教えてくれる場所を設置してほしい。

【居場所や相談できる環境の整備】

- ・いつでも安心してスクールカウンセラーに相談できるよう、カウンセラーを増やしたり、個人情報の扱いを定めたガイドラインを作成してほしい。
- ・公園や公民館などこどもが遊ぶことができる公共施設の整備。学校の校庭の開放。

【経済的な支援】

- ・どんな境遇でも学び続けることができるよう支援してほしい。
- ・家庭の経済状況により進学や将来の選択肢が狭まらないようにしてほしい。

【こどもの意見の尊重】

- ・こどもについての法律や制度を議論する場にこども自身も入れてほしい。大人だけでこどもが抱えている問題を網羅することは難しいと思う。
- ・こどもの意見を取り入れているとしても、多くのこどもは意見を聞いてもらえる機会があることを知らない

【法整備など】

- ・こどもの権利をどんな場面でも大切にすることを約束する「こども基本法」をつくってほしい。
- ・こどもの権利が守られているか確認・監視する機関をつくってほしい。
- ・こどもに関わる取組みを、全体的にみて進める役割をはたす国の機関をつくってほしい。

Q3. どのような仕組みがあったら政府や自治体に意見を言いやすいと思いますか？

【SNSや学校などを通じた意見聴取】

- ・学校やフリースクールを通じて、こどもが意見を出せるようにしてほしい。
- ・学校から配布されているタブレットに自身の悩みを相談できるアプリを入れてほしい。
- ・全てのこどもがいる家庭に用紙を配り、こどもとその親に意見を書いてもらう。また、URLを添付し、ネットから意見を提出してもらえるようにしてほしい。
- ・SNSは匿名での投稿が可能。こども・若者がSNSに気軽に意見投稿をできるようにし、政府の代表者がその投稿に回答するようなシステムをつくってほしい。
- ・SNSを利用してライブのQ&Aを行って、こども・若者の提案や意見にその場で回答できるようにしたらどうか。

【情報やプロセス・成果の見える化】

- ・こども・若者から集めた意見を実現するために行った活動や成果もSNSを利用して投稿してほしい。
- ・こども・若者が意見を言う方法を全国のこども・若者や大人に知らせることが重要。
- ・政治の報道について、こども向けに要約したり、イラストをつけたりするなどの工夫が必要。

8

こども・若者からのヒアリング ④

ヒアリング対象者：児童相談所一時保護所の小学生・中学生6名、児童養護施設の中学生・高校生3名
ヒアリング実施日：2021年11月6日、7日

※こどもが意見を言いやすい環境を整えるため、それぞれ2回に分けて実施。1回目のヒアリングでのこどもの意見は別添として掲載。

Q1. 困っていること、悩んでいることはありますか？

【一時保護所や施設における生活での不便さやストレス】

<一時保護所>

- ・友達、交際相手、ペットに自由に会えない。自由に連絡を取れない。
- ・好きなタイミングで自由に外に行けずストレス。
- ・ネット環境がなく、不自由。好きな動画を見たり、勉強のことや将来のことを調べたりしたい。
- ・ゲームをする時間や回数に制限がある。自由に遊びたい。
- ・私物のゲーム機やスマホなどを自由に持ち込んだり、使ったりできない。
- ・自由に髪を染めたり、髪を切ったり、ピアスをあけたり、好きなファッションができない。自信を持つために大切。
- ・コロナ禍で一時保護所に入所してすぐは静養室にいたが、漫画や本など時間をつぶせるものがなく退屈だった。
- ・学習することにトラウマがあり、職員に「学校がづらい」と言うと、「将来のためにならないよ」と言われる。

<児童養護施設>

- ・中学生はスマホの契約をしていないので、外出時に友達と連絡がとれず不便。夜はスマホを回収され自由に使えない。
- ・施設は「家庭的な雰囲気」を目指していると言っているが、時間で食堂を閉めたり、雨でも迎えに来てくれなかったり、自分の部屋にきょうだいや寮のほかのこどもを入れてはいけなかったりと、全然家庭に近づいていない。こどもを呼び捨てにすることは威圧感を与えると外部から指摘され、呼び方が「さん」付けになったが、逆に一線を置かれている気がする。
- ・今のお小遣いでは、友達との人間関係に必要な金額に足りない。少ないお小遣いの中で文房具や飲み物など、普通の家庭だったら親に買ってもらえるようなものを自分で買わないといけない。そのくせ、使い方を注意されたりする。
- ・建物の中で声や音が響きやすく、小さい子が先生の名前を呼んだりする声などが電話の相手に聞こえてしまう。施設にいることがばれたくない子にとっては迷惑。
- ・門限が決められていたり外泊できないことで、友達に気を使わせてしまったり、自分だけ先に帰ることが申し訳ない。
- ・職員がこどもに冷たい気がする。忙しいと対応してくれなかったり、こどもによって対応が違う場合もある。定時になると帰ってしまいお風呂に入れなかったりする。中学生が学校を休んでも施設では昼ごはんが用意されていない。決められた時間を過ぎてもスマホを使うだろうからと夜は回収するなど、憶測に基づいてルールが決められていて、活用されていないと感じる。職員が少なく余裕がないというのもあるんだと思う。
- ・寮の移動や職員の異動により人間関係を一から作らないといけないのがづらい。
- ・両親に事情があって入所している場合もあるのに、「施設は問題を起こした子、問題のある子が入っている」と言われた子がいる。そんな風に誤解されるのはづらい。

9

Q2. 困っていること、悩んでいることに対し、政府や自治体にやってほしいことはありますか？

【教育環境の改善など】

- ・一時保護所から学校に通えるようにしてほしい（高校生のみ学校が電車等で通える場所にある場合は通学している）。
- ・一時保護所では授業の科目が算数、国語、英語に限られている）。社会や理科や保健の勉強時間を増やしてほしい。

【一時保護所や児童養護施設の環境の改善】

<一時保護所>

- ・リモートでつなぐなどして友達と話せるようにしてほしい。友達と話すと勇気をもらえる。
- ・一時保護所の職員を増やしてほしい。一緒に遊んだりしたい。
- ・好きな時に好きな場所に自由に外出ができるようにしてほしい。行先は自分たちで決めたい。
- ・放課後等サービスや部活など自分の居場所となっている場所に通えるようにしてほしい。
- ・一日だけ家に戻ったり、学校に通ったりして、環境に慣れるための体験ができるようにしてほしい。
- ・親に連絡する際、職員を通じてではなく直接電話で話せるようにしてほしい。
- ・壊れた所を修理したり、本棚を増やしたり、漫画やぬいぐるみなどを買うためのお金がほしい。

<児童養護施設>

- ・スマホは職員や友人との連絡手段として、とても重要。
- ・スマホの通信料を自分のバイト代から払わないといけないが、将来使うお金（一人暮らしの費用、車の免許など）がなくなってしまうので、施設内のWi-Fiを自由に使えるようにして通信料を抑えるなど経済的な負担を小さくしてほしい。
- ・不登校になった際など、ただ「学校に行け」と言うだけでなくもっと寄り添ってほしい。
- ・偉い人のお話を聞くなどではなく、実際に役に立つような自立支援をしてほしい。
- ・仕事に追われてこどもとのコミュニケーションをしっかりと取ろうとしない職員が多い。施設経験者など気持ちの分かる人に職員になってほしい。

Q3. どういった仕組みがあったら意見を言いやすいと思いますか？

【信頼できる人から安心できる環境での意見聴取】

- ・意見箱のように匿名で職員の事を書いたりしたら書かれた職員も嫌な気持ちになると思うので、職員に直接言える関係性を築くことが大事。そのためには、こどもの気持ちを理解できる人に職員になってほしい。
- ・秘密や約束を守ってくれる信頼できる人や自分が好きな職員であれば意見を言いやすい。
- ・見ず知らずの人には悩みや困っていることなど教えられない。境遇が近い人や信用できる人でないと話せない。
- ・かわいそうだねと同情する人よりも、アドバイスをくれて、一緒に解決してくれる人に相談したい。
- ・同年代の人だと自分の意見を言いやすい。特に女の子にとっては近く感じる女性の方が話しやすい。
- ・職員と一緒に買い物に行くなど出掛ける日をこまめに作ったりすれば、身近に感じて出かけている最中に意見を言いやすくなる。
- ・自分の部屋など自分が落ち着け、安心できる場所で意見を聞いてほしい。
- ・会議みたいな場所ではなく、周りで小さい子が遊んでいるような気軽に話せる場所の方が話しやすい。
- ・丁寧語は距離を感じるので気楽に話してもらえたら意見を言いやすい。

参加者からの感想

- ・色々話せてスッキリした。自分たちの意見を反映して、改善してもらえるとうれしい。

10

こども・若者からのヒアリング ④ (1回目のヒアリング概要)

別添

日時：11月3日(水)13:30～15:00、15:30～17:00、11月4日(木)15:00～16:30
対象：関東の児童相談所一時保護所の小学生、中学生(8名)
関東の児童養護施設の中学生、高校生(15名)

1. こどもの権利カードを選ぼう (児童相談所一時保護所の小学生、中学生)

○選んだカードとその理由

- 「ネットや本を自由にみたい」
 - ・インターネットが使えない。動画投稿サイトやゲームができない。調べものができない。
- 「高校に進学したい」
 - ・高校に進学できないと就職に不利になるから。
- 「もっと勉強したい」
 - ・一時保護所で受けられる授業は限られている。
- 「学校に通いたい」
 - ・友達に会いたい。
- 「好きな髪型や好きな服装で過ごしたい」
 - ・好きな髪の色に染めたい。気分が上がる。
- 「たたかれたり痛い思いをしない」
 - ・これはそのまま、当然でしょう。
- 「ひみつを守ってほしい」
 - ・秘密を守ってくれない人がいる。
- 「児童福祉司や児童心理司ともっと会いたい」
 - ・2週間以上会っていない。今(ケースワークの進捗が)どうなっているのか知りたい。
- 「ゆっくり休みたい」
 - ・(家にいたときに)学校と部活が忙しくてゆっくりできる時間がない。
- 「他のこどもとくらべられない」
 - ・これはそのまま。比べられるのはいや。

11

2. 現在の生活で困っていること、改善してほしいこと (児童養護施設の中学生、高校生)

- ・おこづかいの金額が少ない。
- ・スマートフォンの契約ができない。
- ・友達を自分の部屋に入れることができない。きょうだいですら入ることができない。なぜだめなのかわからない。
- ・同室の子がいるならわかるが、理由がない。
- ・寝る時間が午後11時なので、それ以降のテレビが見れない。
- ・外出は、〇〇駅までしかいけない。
- ・友達の家にお泊まりができるようにしたい。友達の家から一緒に学校に通いたい。
- ・職員からこどもの呼び方が、「～さん」に変わった。気持ちが悪いのでやめてほしい。
- ・門限は午後6時。友達と遊びに行く時間を伸ばして欲しい。
- ・夜、スマートフォンを職員に預けないといけなく、回収されたくない。夜、絵を描いたり、音楽を聴いたりできない。
- ・少しの話し声も漏れるので、電話をしにくい。音が響きやすい。
- ・服代は、1年間で3万円では足りない。
- ・ジュースを自分で買わないといけなく、普通の家では、親が買ったものを飲めるのに。
- ・(週700円分のおやつ)自分で食べるおやつを決めたい。自分で買いたい。
- ・インターネットは使える時間が決まっている。もう少し使いたい。
- ・おこづかいが少ないことや門限が早いこと、スマホがWi-Fiがないと使えないことなど友達に知られたくない。友達から気を遣われたくない。かわいそうと思われたくない。職員に言っても、「来年(高校生)になったら使えるじゃない」と言われる。
- ・ルールを勝手に決められる。
- ・職員が勤務時間だからという。ドライ。
- ・Wi-Fiが使える時間を伸ばしてほしい。友達と電話を夜するときに無料電話ができるアプリが使える。携帯電話代が安くなる。
- ・職員に「もっとシフトに入ったら」と言われる。今は週に5日で働いている。施設を出るとお金があるので、今のうちにお金を貯めないといけなく、もっと働かないといけなく、友達と遊びの時間が欲しい。
- ・職員によって言うことが違う。
- ・(一時保護所について)他の子と話すとき怒られる。男女で視線を合わせてることもダメ。
- ・児童相談所の一時保護所がひどい。完全な牢屋。
- ・前はよかったことが突然ダメになる。
- ・職員に気持ちが悪い。定時になった途端に帰ったり、夜遅い時や大雨の時に迎えにきてくれなかったりする。
- ・「～さん」でなく、「～ちゃん」がよい。「～さん」は嫌。
- ・バイトで稼いだお金は自分で使いたい。
- ・文房具を買って欲しい。お小遣いで買わないといけなく。
- ・ある職員に注意されたことについて、他の職員に同じことを何度も言われる。翌日や翌々日にも言われることがある。
- ・児童相談所の児童福祉司が施設に来る日は、突然伝えられる。急に「バイトを休め」と言われるが、他の人に迷惑がかかるから、早めに言って欲しい。

12

こども・若者からのヒアリング ⑤

ヒアリング対象者：社会的養護（一時保護、児童養護施設、里親、ファミリーホーム）の経験がある大学生3名
ヒアリング実施日：2021年10月13日、20日

Q1. 困っていること、悩んでいることはありますか？

【経済的な不安】

- ・施設を出てから大学入学までの期間、奨学金もすぐには入らない中、引っ越し代や入学金など、今払わなければならないお金が足りずに困った。
- ・留年や休学をしてしまうと奨学金が打ち切りになってしまうことが不安。
- ・一部の奨学金は卒業後数年働いたら返還額が減少するが、働けなかったら全額返還が必要。社会的養護経験者はトラウマ抱えている人が多く、生きていくこと自体に不安を抱える中、奨学金を返還できるか不安。
- ・コロナ禍でバイトができなかったことは痛手。

【頼れる人や保証人がいない】

- ・家を借りる際の保証人や大学の奨学金を借りる際の保証人となってくれる人を探すのが大変。
- ・アフターケアの担当者はほとんど会ったこともなく、連絡しても返信ない。
- ・コロナの影響で大学に行けなくなったことにより孤立している。クラスメイトはいても心を許せる友達がいない。どの学生もさみしい思いをしていると思うが、自分には「帰る場所」というのがない。

【生活を築くための基本的な知識・情報の不足】

- ・一人暮らしを始める際、親に自分の住所がわからないようにする手続きや健康保険の手続き、ガス・電気・水道の契約など、生活の基盤を築くための手続きをどうすれば良いか分からずに困った。

13

Q2. 困っていること、悩んでいることに対し、政府や自治体にやってほしいことはありますか？

【積極的な情報発信、情報共有の仕組み】

- ・社会的養護出身者が使える制度は色々あるのに、使える制度を知らない、知らされていない。措置延長の仕組みなども含め、そもそも施設の職員があまり制度のことを知らないので、制度のことを知ってほしい。担当職員の知識量によって、制度を知ったり使うことができるか左右されてしまっている。
- ・他の社会的養護経験者と、困っていることなどについて情報交換ができる場があるといい。

【リービングケア・アフターケアの充実】

- ・施設出所後、一人暮らしをするにあたって何をすればよいのか、生活の基盤を築くために必要な知識を教えてほしい。出所前に施設でのリービングケアを充実したり、社会的擁護を経験した先輩に基礎的なことを教えてもらう仕組みがあったら良いのでは。
- ・リービングケアは、施設以外の外部の大人も交えて一緒に準備してほしい。自立後に相談できる相手をたくさん作っておくことが重要。
- ・アフターケアや児童相談所の人との関係が、「行政とこども」ではなく、身近で気まずくない関係性を持てるといい。

【コミュニティの創出】

- ・学校以外に、いろんな世代と関われ、学生のうちから色んな価値観に触れられる場、コミュニティがあるといいと思う。また、そうした場合は、意識高い系の人だけでなく、色んな人がハードル低く参加できるような場であることが理想。

Q3. どういった仕組みがあったら政府や自治体に意見を言いやすいと思いますか？

【幅広い層からの意見聴取】

- ・ある程度話せる子がいないと会議が成り立たないので、推薦である程度話せる子をいれるとともに、公募もあった方がいい。なかなか話せないけど、想いを持っている子も入れてほしい。
- ・都会の施設と田舎の施設の子で経験していることが全然違う。幅広く声を聴いてほしい。

【情報・プロセスの見える化】

- ・こどもの声を聴いた後、実際にその声が反映されるプロセスや結果を「見える化」してほしい。そうでないと大人に意見を言っても意味がないと思ってしまう。
- ・政治的な大きい事ではなくても、声を出すことにより、小さい事が叶っていくということを知らしめていくことが大事。
- ・どこに何を話したらいいのか明確に教えてほしい。

【行政へのアクセスのハードルを下げる】

- ・行政は「ただただ固い」、「区役所＝面倒くさい」というイメージがある。いかにハードルを低くするかが大事。
- ・SNSで「変えてほしいこと」の選択肢を作って、同意する項目に投票してもらうなどすると目に見えて分かりやすい。
- ・農作物の販売でやっているように、行政の担当者の顔が見えると「自分たちと同じ人間がやっているんだ」と人間味を感じることができ、関わりやすくなる。

14

こども・若者の声に関する参考資料

- ① コロナ×こどもアンケート調査報告一覧（国立成育医療研究センター コロナ×こども本部）
https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/#03
- ② 令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）報告書
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210430_1.pdf
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210430_2.pdf
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210430_3.pdf
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210430_4.pdf
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210430_5.pdf

こども・若者と野田大臣との意見交換会

こどもの視点に立ったこども政策を進め、こども・若者から直接意見を聴くため、こども・若者と野田聖子こども政策担当大臣との意見交換会を開催しました。

日時：2022年1月12日（水）17:00～18:00

実施方法：現地参加とオンライン参加のハイブリッド形式

参加者：野田聖子こども政策担当大臣

こども・若者（小学校4年～大学3年生）23名

ファシリテーター、サポーター

- ・川瀬 信一氏 一般社団法人子どもの声からはじめよう代表理事
- ・櫻井 彩乃氏 Torch for Girls代表、#男女共同参画ってなんですか代表
- ・土肥 潤也氏 NPO法人わかものまちな事務所
- ・中島 早苗氏 認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン代表理事
- ・広瀬 太智氏 認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン We Movement 事業部
- ・山口 有紗氏 子どもの虐待防止センター、小児科専門医、子どものこころ専門医

内閣官房こども家庭庁設置法案等準備室

1. 野田大臣のあいさつ

- ◆ 現在、こども政策の担当大臣をしている。今月17日から始まる国会で、こども家庭庁をつくるための法案を提出する予定であり、私が責任者である。
- ◆ 国会議員になってすぐのころから、こどものための組織をつくりたいという夢があった。そのために総裁選にチャレンジしてきた。今回、声が届けられ、岸田総理もこども家庭庁をつくらうと動いてくれている。
- ◆ 新しい役所の特徴は新しい日本をこどもと一緒にすること。これまで大人が中心になっていた国の行政の中心を「こどもまんなか」にして、みんなを主役にすることで居心地の良い息苦しくない新しい日本をつくりたい。この役所の創設についての責任者になれてうれしく思っている。
- ◆ 今までは、こどものためと言っても、こどもの意見を聴かずに、親だから、先生だからと言って、大人の立場で、こどもがこう思っているだろうという思い込みでやってきたことが、実際には違ったりもした。これからは、こどもたちがそれぞれの個性の中でどう生きていきたいか、直接言える場をこども家庭庁で作っていききたい。

2. こども・若者からの意見・質問など①

- こども自身がこどもの権利を知って声を挙げていいと知ることが大切だと思う。こどもの権利に関するビデオを作成したり、小学校の指導要領にこどもの権利について組み込んだり、小さいうちからこどもの権利について学ぶことができる機会を増やしてほしい。
- 特別支援学級に通っているが、普通学級にいる友達との交流が減り寂しい。学校で障害を持つこどもと関わる時間をもっと増やしてほしい。そうすれば、小さいうちから障害への理解を得られるようになると思う。なぜ役所の名前をこども家庭庁にしたのか教えてほしい。
- 私は苦手なことと得意なことの差が激しい。得意な教科の授業は簡単すぎ、すでに授業内容を理解しているにもかかわらず、授業を受けなくてはいけない学校生活に息苦しさを感じることもある。学校での学習内容をこどもが特性や能力に応じて選択できるようにしてほしい。
- 私は小さいころからプレーパークという遊び場で遊んでいる。プレーパークは大人もこどもも関係なく、みんな友達になることができ、自然と触れ合うことができとても楽しい。プレーパークのような居場所はどんな人にも必要だと思うのでもっと増やしてほしい。

2. こども・若者からの意見・質問など②

- 私は学校には通っておらず、フリースクールに通っている。成績がつかず、受験できる学校が限られてくるので、学校に行かなくても学校のドリルや市販のドリルをやったら学校の成績が少しでもつくようにしてほしい。フリースクールにお金の補助をしてくれたら、フリースクールに通っている人も色々な学びができると思う。
- 私は現在、フリースクールに通っており、公立の学校には通っていないが、フリースクールと公立の学校、両方にお金を払わないといけない。公立の学校にお金を払わないでいいようにしてほしい。また、フリースクールにお金の補助をしてほしい。
- こども・若者が多くの時間を過ごす幼稚園・保育園・学校などでは、いつも男女で区別されており、ジェンダー規範までも無意識のうちに学んでしまっている。それは将来の選択を狭めることにも繋がりがねないので、こども・若者へのジェンダー平等教育、保育士や教員、それらの資格を将来取得する学生にもジェンダーに関する教育・研修をしてほしい。また、こども・若者から声を聴くだけでなく、意思決定の場にもこども若者を入れてもらえるといい。
- 私は高校生のときに予定外の妊娠と中絶を経験した。望まない妊娠を避けるための教育をするとともにユースクリニックで心と身体について相談できる場所を確保してほしい。また、必要なときに正しい情報を得られるようメディアリテラシー教育を充実してほしい。

2. こども・若者からの意見・質問など③

- 発達障害を持つこどもの半数以上が虐待を受けている。育てにくさから追い詰められる親も、虐待される子も苦しい。私の発達特性のため、親は私を、私も親を愛しているのに大切にする方法がわからず苦しかった。適切な第三者が介入し、家族の再統合のための援助や、日常の親子の摩擦を癒すためのリトリートケアやレスパイトケアを充実してほしい。そのために予算をつけて必要な人材を育成を育成してほしい。
- 私は中学・高校などを訪問して、悩みを相談したり、人生の話をしたりするピアサポート活動をしている。基本方針に書かれているとおり、「こどもと近い目線・価値観で対応することができる「お兄さん」「お姉さん」的な支援者による支援を進める」、「学校や家庭以外の居場所づくりに取り組む」ことは非常に大切であり、当たり前にはピアサポート活動が実施される社会を実現していきたい。学生だけでは限界もあるので、行政や地域の人に活動を支えてもらえたら嬉しい。
- 私は児童養護施設に住んでいる。児童養護施設にいるこどもは両親からの経済的支援がなく、バイト代から携帯代を払ったり、自立の準備に必要なお金も自分で準備しなければならない。児童養護施設にいるこどもへの経済的な支援をしてほしい。また、児童養護職員とこどもの関わり方を改善してほしい。施設の職員は、仕事が忙しくてこどもとの時間をなかなか取れない。もっとこどもに寄り添って分かってくれる職員がいてくれたらと思う。

3. こども・若者からの意見を受けて 野田大臣からのコメント

- ◆ みんなの話を聞いて一人として同じ人はいない、みんな違うということを改めて実感した。そして、それがこども家庭庁をつくる時の前提であると思った。今日の意見交換会はこども家庭庁ができた際の予行練習だと思っている。こども家庭庁ができたとき、すぐにはできないかもしれないが、こういった形の場をもうけたいと思っている。
- ◆ 私は発達障害者支援法づくりに関わった。当時は発達障害という概念がなく、しつけがなっていない子、変な子とされていた。法律ができてからはセンターができたりした。私もこども時代は変わっていて、浮いていたことがあった。つらいと思えば永遠につらい。心の持ち方、考え方ひとつで違ってくる。みんな違うということが前提で違いを辛くない社会にしたい。
- ◆ 「こども家庭庁」という名称について質問があった。家庭でつらい思いをした人にとって、家庭は嫌だという意見もあるが、「こども家庭庁の方がいい」という意見もあり、より多くの人に応援してもらうために「こども家庭庁」になった。家庭が良いか悪いかは人それぞれだが、仮に最初の家庭が悪かったら、次の居場所をつくっていくことが政府の役割だと考えている。
- ◆ 本日はありがとう。あつという間で、もっともっとみんなと色々な話をしたかった。みなさんから新しいアイデアや考え方を教えてもらってとても嬉しく思う。しっかり実現していけるように頑張りたい。

4. 今後について

こども家庭庁を令和5年度（2023年度）に作ることを目指しています。

今回の意見交換会でいただいた意見をしっかり受け止め、こども家庭庁づくりに役立てていきます。こどもや若者のみなさんと一緒になって考えていくことを大事にする、そんなこども家庭庁にしていきたいと思います。

皆さんからいただいたご意見

5月中旬に実施した皆さんからのインタビューでいただいた意見を、権利擁護ワーキングのとりまとめに反映しました。

以下が皆さんにいただいた意見をまとめたものです。
ご協力ありがとうございました。

<皆さんのご意見まとめ>

○これまでに意見をきかれたことはあるか

【一時保護されたとき】

- ・説明は記憶にない。
- ・(一時保護所に行くときは) 共同生活の体験をしようねという説明だったと思う。
- ・一時保護入所前はどんなところに行くのか全然知らなかった
- ・心の準備ができるよう、細かい説明をしてくれたらよかった。
- ・一時保護のことを事前に知りたかった。
- ・一時保護所くる1分前に、一時保護所に行く事を察した。病院に行くと言われた。
- ・正直に言って欲しかった。
- ・一時保護所に行く車の中で行く先の情報を知りたかった。
- ・一時保護所の担当職員や児童心理司が話をきいてくれたが、ここに来る前は誰にも話していなかった。信用できる大人がいない。
- ・保護される前は学校の先生や友達に話せることは話していた。
- ・SNSを通じてカウンセリングの専門家に話していた。(児相に保護されるきっかけになった。)
- ・警察から家に帰りたくない理由をきかれたときに、児童相談所と家は嫌だと言ったが、警察から「良いところに行こう」と言われ、一時保護所に連れていかれた。
- ・泣いて、思いを伝えたいときはきいてくれた。
- ・1日だけと言われて一時保護所にいると、5ヶ月いる。その時は、一時保護所

(別紙3)

厚生労働省子どもの権利擁護に関するワーキングチーム
子どもへのフィードバック(令和3年12月23日)
いただいたご意見まとめ

は嫌といった。

- ・一時保護所に入ったとき、説明されたが、当初きいた期間より大幅に伸びた。
- ・一時保護はいやだと言ったけれどいかにされた。
- ・一時保護のときは誘拐されたと思った。
- ・一時保護のときは私物を取り上げられる。下着も渡される。
- ・一時保護所に意見箱が置かれているが、使われているのかわからない。使っていいよとちゃんと説明されたこともない。
- ・一度意見箱に時間割についての意見を入れたが、何も返事はなかった。

【施設に入るとき】

- ・施設に入るとき、大人は施設の説明をしてくれて、楽しそうと思った。
- ・記憶にない。10年以上前だから。
- ・(意見をきかれたかは) 記憶にないけど、見学に行ってもいいかなと思った。
- ・施設にするか里親にするかきかれた。
- ・家か施設かはきかれた。
- ・施設に行くかはきかれたがよくわからないまま決められた感じ。
- ・施設に行くことは一週間前に言われて心の準備ができなかった。
- ・この園に来る前、「ここで良い？」ってきかれて「嫌だ」と言ったけど、この園になった。その説明はほしかった。
- ・自分に関わるルールを作るときには、意見きいてほしい。自分たちが暮らしやすいように、ではなく大人が仕事しやすいようにルールが変わっていく。自分たちにとっては家なのに、大人にとっては職場だから。結局自分たちは仕事の材料なんだなって思う。
- ・よく分からないルールがあって、なんで？ってきいても「昔いろいろあった」、「大人の事情」で済まされる。
- ・意見箱はあるけど、1階の職員室の近くにあるからそこまでいかないといけない。1階に降りただけでも「何しにきたの？」ときかれるし。
- ・大人の都合で支配されていると感じる。こどもにはくわしいことを知らせたくないのではないかと感じる。

- ・自分のことなのに、ケースワークの進み具合ぐあいがわからない
- ・こういうタイプの施設だとは想像していなかった。
- ・自由にしたかったので施設に行くことには反対だったが、納得できない。
- ・自分がなぜここにいるかは自分が一番わかっているので、意見をきかれるといってもイメージがわからない。
- ・少年院か自立支援施設か、説明を受けて自分の意見をきいてくれた実感はあった。
- ・今日話してみてスッキリした。意見きいてくれるのはとてもいい。

【その他】

- ・児相の担当ケースワーカーについては、ほとんど意見をきかれたことがない。
(担当者が) 変わりすぎて分からない。
- ・里親担当さとおやたんとうのケースワーカーの名前は比較的知られている。
- ・コロナになってからケースワーカーが来なくなった。
- ・実親のことについては、きいたことがある。
- ・なぜ里親家庭さとおやにいるのかについては、きいたことがある。
- ・気持ちや考えを自由に言いたい。
- ・ケースワーカーや児童心理司は他のこどもにも忙しく対応しているので、迷惑をかけないようにあまり意見を伝えないようにしている。
- ・ケースワーカーや児童心理司の業務スケジュールぎょうむスケジュールを前もって把握できれば意見を伝えやすい。呼ばれる日をホワイトボードに掲示けいじするなど。
- ・相談すれば話はきいてくれるが、それを受けての対策をもっとやってほしい。
- ・嫌だと言ってもいいと言われたので、「イヤ」と言ったが、「仕方がない」と説明された。
- ・行きたくなかった。
- ・この先どうなるか、意見を尊重そんちょうしてくれた。「あなたは どうしたい」ときいてくれた。自分の意見を言えた。
- ・家で嫌なことがあったら通っていたデイサービスの先生に話していたが、そのことを親に怒られた。

- ・大人の考えに合うことを言わないと、「言い訳だ」とか「それは違う」って言われる。
- ・意見をきかれたことない。
- ・(自立支援計画じりつしえんけいかくを作るとき、意見は) きかれていないと思う。
- ・(自立支援計画じりつしえんけいかくについては、) あるのは知っているけど、内容は知らない。
- ・進路のことで決まっていく時に、自分の気持ちと違った方向にみちびこうとする時がある。

- ⇒皆さんからのこのような意見を受け、ワーキングチーム報告書ほうこくしょでは、
- ・一時保護いちじほごされたときや施設で生活をはじめるときなどには、こどもの年齢などに合わせた適切な方法てきせつによりこどもの意見をきかなければならないことを児童福祉法じどうふくしほうに定めるべき、としました。
 - ・また、自立支援計画じりつしえんけいかくはこどもの意見を聴いたうえでつくらなければならないことを法令に定めるべきである、としました。
 - ・さらに、県などは、こどもたちが自分自身に関する物事の決定プロセスに参加できるような仕組みなどをつくるべき、としました。

○意見表明を支援する人について

【どんな人なら自分の意見や不満を言いやすい/言いにくいかな】

- ・自分と年が近い人にきいてもらいたい。年が上の人は気をつかう。
- ・誰にも相談しない。
- ・友だちだけ。大人にはしない。
- ・大人は関係ない。
- ・児相の自分の担当の人がいい。
- ・知らないおじさんやおばさんには話したくない。頭がよさそうな人に話す。
- ・話しやすい人に言えば、その時はスッキリするけれど、問題が解決かいげつされるわけではないので、話をしなければならぬ。考えておくといった返答へんたうがあるが、時間がかかる場合があるので、速やかに対応してもらいたい。
- ・児童相談所などに依頼しようとする止められるような発言があった時もある。

った。

- いろんな人に話をきかれることに慣れたからどっちでもいい。誰でもいい。
- 同性がいい。話をきかれたくない。
- うそや隠し事をしない人。素直で正直な人。
- 上っ面だけの人は嫌だ。気持ちにより添ってくれる人がいい。
- ネチネチ言わない人がいい。
- 友達にも言いたくない。
- 里親家庭のことも友達には言っていない。みじめな気持ちになるかも。
- 母子家庭の友だちとかなら言うかも。似た経験をした人。
- 中学の時は友達が家に来たから知っていた。
- 自分に寄り添ってくれる人に言いたい。
- 家族内なら何でも話せる。里子同士とか。
- 学校には話せる人いない。園の人かな。
- おじさんは口軽そうで嫌だ。
- しっかりしている人、物事をぱっと解決できる人に話をきいてほしい。
- ちゃんと仕事する人がいい。
- やさしい印象の人がいい。
- 他人に伝えていいこと、悪いことの線引きを最初に紙に書くなどしてハッキリさせたい。
- 自分事におきかえて人に知られたら嫌だなと思うことは言わないようにしてほしい。
- ひみつを守ってくれる人。
- 信頼できてないと無理。
- 園の職員に裏切られたことあるから無理。言わないでと言ったことを言われて、それが原因で怒られたから言いたくない。
- 学校の先生には話しやすいが、施設に連絡が入る。
- 話せる職員とそうでない職員がいる。
- 小さいころ、実際に社会的養護を経験した人にきいてほしい。
- 経験していない人に「大丈夫」と言われても、素直に受け止められない。
- はじめましての人でも、人によって親近感がわく。

- 児童相談所の職員という雰囲気がない人がいい。
- 腹割って話せる人。
- 学校のカウンセラーが話しやすい。
- 経験と専門知識がある人に話をきいてほしい。
- 親に通じていない人、他人に漏らさない人に話をきいてほしい。他人に伝わってしまうと思うと話したくなくなる。
- やさしくて面白い人。
- こどもの意見をきくのは良いが、デリケートな心の問題を他人に広めないでほしい。
- 職員同士が共有しあうのが嫌。
- 明るい人。
- 理由を正論で返す人は嫌。気持ち、考えを受け止めて欲しい。
- ズバズバ言ってくる人は嫌。精神的にしんどくなる。
- 反論してくると何も言えなくなる。

【どんな人なら信頼できるか】

- 何年も一緒だったら。園の職員になる可能性高い。
- ホーム違う職員さんに言いたいと思っても、「まずホームの職員頼って」って言われる。
- ここを退所した人とか。でも結構昔にいた人とかは嫌だ。

【どんな時に/何について意見を言いたいか】

- この先のこと。高校に行けるのか。
- つらい時、不安なことを吐き出した。
- 学校に行きたい。一時保護所の職員に行っても、ケアワーカーと話を進めるしかないと言われる。
- 勉強が苦手なので、内申点が欲しいが、一時保護所にいるのでもらえない。
- 学校のイベントには、参加できるが授業に出られない。
- 授業についていけるか心配。
- 進学先は自分で決めたい。制服で選ぶ。

- ・遊びに行くときにどこに行くかきいてほしい。
- ・外出するときにアクセサリをつけたかったのにきいてもらえなかった。
- ・里親さとおやと話が合わないことがある。里親さとおやさんがたくさん話す。
- ・学校を休みたいときは仮病かりびょうを使っている。
- ・習い事について意見をきいてほしい。意見をきいてくれて、今では（習い事を）やめている。
- ・学校の書類しよるいで名字が違うのが嫌。友達に見られないかドキドキする。
- ・学校で家族の話になると気まずい。親おんれいの年齢ねんれいとか。きょうだいの話とか。
- ・説明するのが面倒めんどうくさい。
- ・児相こそうの担当が代わったときに一から説明しないとイケない。ちょっとした引継ひきつぎぎがされていない。
- ・お金のことを教えてほしかった。大学進学にかかるお金とか。
- ・習い事をやめたいと言ってもやめさせてもらえない。
- ・学校は休みたいといったら休ませてくれるかなあ。コロナのせいもあるかも。

【どんな場所なら言いやすいか】

- ・周囲にきかれない場所がいい。1対1で対面がいい。
- ・ファミレスなどがいい。
- ・家で2人きりできいてほしい。里親さとおやさんがいない方が気をつかわない。
- ・1対1など少人数で話をきいてほしい。
- ・家とは別の場所がいい。静かな場所。
- ・トラブルを起こした人がいる場所では話したくない。
- ・誰にもきかれない個室こしつが良い。
- ・家だと筒抜けつつぬけになる。ひみつにするとか言っても守られない。みんなでセンターせんたー（児相こそう）に面談めんだんに行ったとき、言わないと言っていたのに車の中で（里親さとおやから？）怒られた。それ以来何も言わないようにした。
- ・1対1で静かな場所で話したい。
- ・堅苦しいよりは緩い雰囲気ふんいきのほうが話しやすい。
- ・関係者が周囲かんけいしやにいない環境かんきやうがいい。
- ・知らない人が急に話をききに來るのは怖い。定期的ていきてき（月1回など）に來てく

れたらこちらにも意見をまとめられる。

- ・遊びながら、フレンドリーな雰囲気ふんいきのほうが話しやすい。
- ・1人1人個別こくべつにきいてくれたほうがちゃんと伝えられる。
- ・辛いことがあったときに周りの人にきかれない。
- ・公園こうえんなど開放かいほう的な場所が話しやすい。
- ・開放かいほう的な場所よりも狭い個室こしつのほうが話しやすい。
- ・周りに人がいると言えない。
- ・家でも言えない。怒られるから。1対1は無理。思っていることを上手に言えない。恥ずかしい。
- ・園以外。どこから見られているか分からない。
- ・園の面会室めんかいしつは（壁が）ガラスだからいることがバレる。
- ・園は壁が薄い。前部屋で独り言ひとりごいっていたら全部ぜんぶきかれていた。
- ・園は他のこどもと大人の声もきこえるし、キッチンとかで大人同士の声もきこえる。自分のこと話されてるのかなって思う。ききたくないのに。
- ・今日も（今いる会場に園の）大人がいて思っていた。いたらこんなカードとか選べない。「ないです」と言うと思う。
- ・ここ（施設）は嫌だ。不安になる。けど、だからといって別の場所べつで重い雰囲気ふんいきの中では嫌だ。
- ・気軽にお話ししたい。
- ・どこでもいい。密室みつしつがあれば。
- ・学校のスクールソーシャルワーカーそしやうがいる部屋。スクールソーシャルワーカーと仲が良かった。

【どんな手段なら相談しやすいか】

- ・手紙は残っちゃうし電話はきかれる。
- ・LINEは伝わりにくい。
- ・園とは別の場所で口頭くごうで話をきいてもらうのがいいかな。
- ・施設以外の人に電話するとき施設を通すことになっている。
- ・[意見をきいてくれる委員れんらく]に電話するのも施設職員れんらくを通して連絡れんらくした。
- ・（携帯がない場合、施設の人に言いたくないことを第三者委員れんらくに連絡れんらくするの

は) 無理。連絡できないから自分で解決する。

- ・(施設に来るといいうプランがいい?→) いいと思う。
- ・(毎週何曜日など定期的に来る方がいいのか、呼んだら来るっていうのがいいのか。→) 呼んだら来るのがいい。

⇒ワーキングチーム報告書では、県などは、意見表明を支援する人(意見表明支援員・アドボケイト)の配置など子どもの意見表明を支援する環境をつくることに努めなければならないと児童福祉法に定めるべき、としました。

また、皆さんからのこのような意見を受け、意見表明を支援する人や意見をきく場所については、子どもたちのニーズに応じて柔軟に対応することが求められる、としました。

○児童福祉審議会について

- ・(児童福祉審議会を)知らない。
- ・どうやって言えばいいの?電話だと待たされそう。電話番号も知らない。
- ・LINEが使える環境は半分くらい。でも相談したらチェックが入りそう。
- ・お手紙とかの方法はないの?
- ・子どもの権利についてのプリントは見たことある。連絡先を書いたカードをもらった覚えはある。どこにいったか分からない。
- ・電話番号を知っていたとしても、よく知らない人に相談できない。誰が出るかも分からないのに電話できない。すぐに解決するとは思えない。そのあとどうなるのかも分からない。
- ・ひみつを守ってもらえるのか不安。
- ・里親のことを相談したら、里親のもとにいられなくなるのではないかと出ていけと言われて出ていく場所もないのに。大ごとにしたくないのに話が大きくなりそうで相談しにくい。
- ・家族内で話をするのが一番。それでよくなることもある。今の里親は話をきいてくれている。
- ・どんな仕組みがあるのか当事者に知れ渡っていない。知らないからあやしい

ものと思っでしまい安心して利用できない。

- ・一度相談ダイヤルに電話しようと思ったことがあるが、携帯電話は持っていないし、親の電話も使いづらいので難しい。
- ・文章で書くと誤解を招くので、電話でアクセスするのが良い。
- ・権利ノートのはがきを活用するのも良いのではないかと。
- ・SNSでのやりとりがあるならやってみよう。時間を気にしなくて良いので。
- ・学校の授業などで教えて欲しい。
- ・ロングホームルームで取り扱ってはどうか。
- ・学校の先生がタッチすると親に連絡されてしまうので、直接第三者につなげたい。
- ・いじめアンケートを書いたことでいじめが更に悪化することもある。
- ・話をしたことを親には知られないようにしてほしい。
- ・在宅で危険を感じたら一時保護所に伝わるとよい。
- ・誰が見ているのか分からない、意見を入れても何も変わらない、なので意見を書かない。
- ・(ここ(施設)に不満を言いたいときの手段として電話をかけるというのがあるけど、)電話だと、園の職員に言わないとか架けられなくて、どこに架けるかきかれるからとめられる。
- ・他の手段としては手紙かな。スマホは高校生以上だし、支払いは自分になるから持てない子もいる。
- ・(児童福祉審議会について)知っている。電話だけではなく、手紙も活用できると良いと思う。
- ・(児童福祉審議会以外の権利機関は、)つくることについては賛成。
- ・(児童福祉審議会に電話がつながる9時~17時は、)学校で、スマホを切っているのでかけられない。公衆電話も学校にない。夜間と土日に電話がつながるようにしてほしい。
- ・アドボケイトのカードは小さくてなくなった。
- ・外部との連絡が制限されているので、電話でのアクセスは難しい。
- ・はがきの方がやりやすいかもしれない。

⇒皆さんからのこのような意見を受け、ワーキングチーム報告書では、子どもが児童福祉審議会などにアクセスしやすい方法は、子どもたちによって様々であるので、多様なアクセス方法を用意することに気をつけるべき、としました。

また、そもそも児童福祉審議会を「知らない」と教えてくれたので、児童福祉審議会が皆さんの役に立つよう、子どもたちにその機関についてきちんとお知らせすることに力を入れるべき、としました。

○その他

【現在の生活について】

- ・1年も一時保護所にいるのは本当にストレス。飽きてしまう。
- ・一時保護所で課されるルールが職員によって違うので統一してほしい。
- ・制限が多い。そこまでする必要はないのではないか。
- ・料理や洗濯など、何も教えてくれない。
- ・最低限のプリントとドリルだけ渡される。教えて欲しくても、教えてくれない。
- ・高校受験の相談にのってくれない。
- ・進路の相談ができない。
- ・「中3なんだから、自分で考えなさい」、「〇〇なんだから、自分で考えなさい」と言われる。
- ・心理司と看護師は話をきいてくれる。
- ・日記を書いているがそれに職員がコメントする。「つらい」と書いたら「自分から逃げるな」とコメントされた。
- ・不安しかない。「楽しい」、「安心」はない。
- ・お風呂は一人15分以内で入らないといけない。長くしてほしい。
- ・片頭痛があるが、薬をもらえない。耐えている。
- ・遊び道具がない。カードゲームしかない。飽きた。何もする事がないので娯楽を増やして欲しい。
- ・男女間でも話がしたい。
- ・寮のルールづくりを子ども達で話し合いをして行ったことがある。また、先

生から事前にこれで良いか確認してくれたこともあった。納得感が持てて良かった。

- ・バイト禁止の高校だから、携帯持てない。バイトできるように学校に掛け合ったけど、「施設だからって、携帯持つためにバイトしていいとか甘い考えがある」と言われた。
- ・権利ノートは持っていない。
- ・子どもの権利ノートの存在は知らない。
- ・ノートは学校で配るようにすればいい。
- ・ノートは家に持ち帰ると親に捨てられる。必要な場合に第三者につなげるような仕組みがあるとよい。
- ・[意見をきいてくれる委員]と仲良しになった。(なんで仲良しになれたのかは、)やさしそうなおばあちゃんだったし、いい事しか言わない。
- ・(子どもの声を仕組みに反映することについてどう思うか。協力してくれませんか。→)うん(と首を縦に振る。)
- ・(20歳の誕生日まで施設にいられることは)知らない。
- ・(第三者評価について)意見をきかれたりしたことはある。
- ・(第三者評価ときいてもピンとこないが)アンケートは知っている。
- ・189は知らない。学校でポスター見たことある。
- ・ときどきは里子の集まりもあったほうがいい。ひみつが守られるなら。
- ・学校の担任の先生と定期的に面会したい。
- ・ケアワーカーと話をして、話が進むと心の支えになる。
- ・心理司のサポートも心の支え。

⇒皆さんからのこのような意見を受け、ワーキングチーム報告書では、子どもたちが自分自身の権利についてよく知ることができるようにはたらきかけたり、社会的養護のもとで暮らす子どもたちや外部の専門家が児童相談所、一時保護所や施設の運営のしかた全体を点検・評価し、その結果をふまえて改善を図ったりすることが必要、としました。